ニッケイ新聞
JORNAL NIKKEY SHIMBUN
DIRETOR PRESIDENTE
RAUL M. TAKAKI
JORNALISTA RESPONSÁVEL
Aldo Shiguti , MTb 36.982
Rua da Glória, 332 - Liberdade
CEP 01510-000 - São Paulo - SP - Brasil
Tel (11) 3340-6060 | www.nikkeyshimbun.jp

モロ 大統領選の支持率急上昇

すでに１０％台前半に「ボルソナロを抜く」との予想も

ドリアとのシャッパ形成説も

保守政党「ポデモス」への入党宣言後、大統領選の世論調査でのセルジオ・モロ氏の支持率が急上昇しており、ボルソナロ大統領の支持者をかなり奪うことになるのではとの憶測が立ち始めている。３～６日付伯字紙、サイトが報じている。

5日のモロ氏（Twitter）

１１月１０日にポデモスへの入党式を行って以来、モロ氏の支持率が急ピッチで上昇している。調査団体「ポンテイロ・ポリチカ」が１１月１６～１８日に行った大統領選の世論調査では１１％。「アトラス・ポリチコ」の１１月２１日の調査では１３・７％。「ポデール・ダッタ」の１１月２２～２４日の調査では１４％を記録している。いずれも、ルーラ元大統領、ボルソナロ大統領についで３位だ。

これで、現状ではシロ・ゴメス氏（民主労働党・ＰＤＴ）やジョアン・ドリア氏（民主社会党・ＰＳＤＢ）に「第三の候補」として差をつけた形となっているが、アナリストたちの分析では、モロ氏は今後、ボルソナロ大統領の支持を奪うことになると予想されている。

リオ連邦大学の政治学者、ジョゼ・パウロ・マルチンス氏は、「今後、仮に民主運動（ＭＤＢ）や新党のウニオン、ＰＳＤＢなどがモロ氏との連立に回れば、ボルソナロ氏の票を奪うことは十分に考えられる。だが、ルーラ氏の場合はあまりに政治スタイルが違いすぎるため、大統領選に参入したところでほとんど影響がないだろう」と分析している。

また、ＸＰインヴェスチメントスの研究員によると、「我々の調査でのボルソナロ氏の現在の支持率は２５％だが、そのうちの２８％に相当する人たちがモロ氏を第２候補にあげている。そうなると、７％ポイント分はモロ氏に鞍替えする可能性があることになる」と分析している。

また、２日付フォーリャ紙サイトの報道によると、政党党首たちは来年２月までにはモロ氏が世論調査の支持でボルソナロ氏を抜くだろうとの予想を立てているという。それは、ボルソナロ氏が経済指標で苦戦を強いられている最中、モロ氏が公の場で自身をアピールできるためだという。

こうした中、モロ氏は現在、全国を回ってアピールを続けている。４日には南大河州に赴き、ポデモスの党大会の前に、１１月のＰＳＤＢの党内選挙で敗れた同州知事のエドゥアルド・レイテ氏と対談を行っている。５日には一転して北東部のペルナンブコ州レシフェに赴き、伝統衣装に身を包んで地元民と交流する姿も見せている。北東部はルーラ氏が非常に強く、左派の地盤の一つだ。

また、ジョアン・ドリア聖州知事は５日、滞在先の米国で「帰国したらモロ氏と面談する約束をしている」と語った。ドリア氏は目的を明らかにしていないが、「大統領選でのシャッパ（連記式名簿）結成を狙っているのではないか」との憶測も流れている。

ドリア氏は５日にエスタード紙のインタビューに応え、「私とモロ氏は２０２２年に同じ戦場に立つ」と語った後、「同じ役職で争う必要はない」「（私とモロ氏は）ブラジルとブラジル国民を守るという、共通の目的を持っている」と答えた。

また、モロ氏とレイテ氏が会談を行ったことについて訊かれたときは、「我々はみな、リベラルな民主主義という同じ戦場に立っている」とも答えており、「同じ戦場」が意味するところは明確にされていない。

オミクロン株 リオも年越し行事取りやめ

北東伯９州にも中止勧告

死者３６％増加の州も

南アフリカ起源のオミクロン株感染者が国内でも確認された事などを受け、リオ市が４日、コパカバーナでの年越しイベント「レヴェイロン」中止を決めた上、北東部でも科学委員会が年越しイベントなどの中止を進言と３～５日付伯字紙、サイトが報じた。

リオ市のレヴェイロン中止は、人ごみ回避を勧める同州科学委員会の進言を受けたものだ。市科学委員会は開催可能と考え、市役所もそのつもりだったが、州科学委員会がより厳しい判断を下したため、エドゥアルド・パエス市長が従った。

同市長は「個人的にも市長としても悲しい決断だ。レヴェイロンは全ての人、全ての信条を一つにし、抱擁を交し合う、比類のない祝いの場だ。リオ市は祝いと抱擁、公共スペースと出会いの街で、勇敢に新型コロナに抵抗し、勝利する。リオ市は美しく、すばらしい街であり続ける」と宣言した。カーニバルついても、「個人的には開催希望」だが、「科学的な立場からの進言がなされた場合はそれに従う」意向を明らかにした。

同市宿泊業者組合はレヴェイロン中止を嘆きつつ、科学的な見解に従う意向を表明。アルフレッド・ロペス会長は、「昨年は年越し行事がなくても８割の客室が埋まり、今年は満杯になると見ていた。宿泊予約の維持と来年のイベント実現を願う」と語った。

アントニオ・フロレンシオ・デ・ケイロス・ジュニオル州商業連合会長も、「売上減少は不可避だが、中短期の安全策はランスがとれた対策と安心感をもたらす。業界は防疫対策を支援する」との意向を表明した。

ただし、レヴェイロンの実施の可否は、８日に行われるリオ州知事とリオ市長との会合後に最終決定となる予定だ。

実現が待たれていたリオ市のレヴェイロン（Gabriel Monteiro/SECOM）

他方、北東部９州の合同科学委員会は３日、国内でのオミクロン株感染者確認や新変異株発生の可能性を重視し、クリスマスや大晦日、カーニバルの行事中止を求めた。

同委員会は密による感染拡大で新たな波が起こる可能性も指摘。予防接種進展とマスク着用義務継続、手洗い励行、劇場やスタジアムなどへの入場時の接種証明提示などの対策強化を求めると共に、就学者への接種は学校でなど、予防接種進展を阻む全ての障壁を取り除く努力も要請した。

北東部は、１１月２１～２７日（感染学上第４７週）と１１月２８日～１２月４日（第４８週）の感染者が各々、前週比で８・４％と１６・１％増えた。特に、マスク着用義務を解いたマラニョン州は２週連続で感染者と死者が増加。また、第４８週の感染者が４倍に増え、死者も３６％増のセアラー州なども現れており、気を抜けない状態が続いている。

本記事は、日本政府支援事業に基づき、サンパウロ日伯援護協会が実施している「コロナ感染防止キャンペーン」の一環です。
ENKYO

ペトロブラス「燃料代値下げせず」

前日の大統領宣言を否定

ペトロブラスは６日の午前中、５日にボルソナロ大統領が行った、「ペトロブラスが今週から、連続して燃料代の引き下げを行う」という宣言の内容を否定した。６日付伯字サイトが報じている。

これは、ペトロブラスが６日に有価証券取引委員会（ＣＶＭ）に送った声明で明らかになったものだ。それによると、同公社は価格調整を早めることはなく、市場に対して責任を持つ市場価格特別グループ（ＧＥＭＰ）が行った決定で未公表のものは何もないという。

この発表が行われた後、１３時１４分に同社の株価は１・４３％上がっている。

これはボルソナロ大統領が５日、サイト「ポデール３６０」の取材に対し「ペトロブラスが今週から値下げを行う」と明言したのを否定した形となった。

ただし、燃料価格が下がるかもしれない兆候が存在したことも事実だ。ここ数週間、国際的な燃料価格が下がっていたところに、オミクロン株が世界中に拡散する状況が生じていたためだ。事実、先月末は１バレルにつき８０ドル（４５５レアル）だったブレント原油の価格は、６日現在で７０ドル（３９７レアル）にまで下がっていた。

そのため、６日の時点でガソリン代が輸入価格に比べ１２％、ディーゼルが６％割高になっていた。

だが今回、ペトロブラスは、国際的なヴォラティリティ（変動性）に左右されることなく、長期的な視点で価格を検討することを宣言した。「ペトロブラスは国外のヴォラティリティやそれに伴う為替変動に惑わされることなく、競争力とバランスを保っていきたい」と同公社は声明の中で語っている。

伯国では２０２１年に入り、ガソリンで７４％、ディーゼルで６５％の値上げが起こっている。

ボルソナロ大統領は１０月にも、ペトロブラスが２５日に正式な燃料代値上げを宣言する直前に値上げを暗示する発言を行い、問題となっていた。

ペトロブラス社屋（Fernando Frazao/Agencia Brasil）

市リオ インフルエンザの患者急増

３週間で２万１千人が感染

新型コロナの感染者や死者は減少傾向にあるリオ市が、時期外れのインフルエンザ患者急増で対応に追われている。６日付伯字サイトによると、同市ではここ３週間で２万１千人がＨ３Ｎ２型のインフルエンザと診断されている。

ダニエル・ソランス市保健局長によると、夏前の時期のインフルエンザ流行は珍しいが、感染病の専門家は既に、コロナ禍でインフルエンザの予防接種率が下がり、新型コロナウイルスの蔓延が落ち着いてきたら他のウイルスによる感染症が増える可能性があると警告していたという。

同局長は６日、インフルエンザより新型コロナを懸念する市民が多かった事とここ２年間はインフルエンザが影を潜めていた事で、同病が増える素地ができたとの見解を表明すると同時に、リオ市は１１月からインフルエンザの予防接種キャンペーンを行っており、ワクチン増量で接種が進めば発症者も減るはずとの見方を示した。

リオ州政府はインフルエンザの患者急増に対応するため、マレシャル・エルメス、チジュッカ、ボタフォゴの救急診療所（ＵＰＡ）と、ペーニャ区のジェツリオ・ヴァルガス病院内に軽症患者用のテントを設置した。ＵＰＡでのテント利用は既に始まっている。

ただ、６日のインフルエンザの予防接種はワクチン不足のため中断。保健省は同州に１７万回分のワクチン配布を約束していたが、正午現在でまだ届いていないという。

インフルエンザの予防接種率低下はリオ市だけの問題ではなく、注意が必要だ。コロナ対策のために採用されたマスクが風邪の蔓延を防いでいた側面があり、開放空間でのマスク着用義務解除がインフルエンザ急増を招いた可能性もある。

東西南北

大統領選世論調査で支持率が急上昇し、注目度が上がっているセルジオ・モロ氏。今週末も全国行脚が話題となったが、その分、痛烈な洗礼も浴びている。４日、南大河州ポルト・アレグレのバーボン・カントリー劇場で開かれたポデモスの党大会前、「泥棒判事」などと書いたプラカードを掲げた一団からヤジを飛ばされた。このグループは、モロ氏が判事時代に有罪判決を下したルーラ元大統領の支持者と思われている。モロ氏は１１月３日にも、ブラジリアの空港で、ルーラ氏の支持者から、「泥棒判事」「ゴミ」「魂を売った男」などのヤジを受けている。やはり、ルーラ氏の支持者にとって、実刑判決を与えた相手というのはどうしても許せないものか。今後、モロ氏が支持率を上げれば上げるほど、この対決は加熱していきそうだ。◎

４日付本欄でも報じた、１８歳の黒人青年がバイクの後部に手錠でつながれたまま、聖市東部の大通りを軍警が運転するバイクに引っ張られて走らされた動画は全国的に大問題となっている。その青年、ジョニー・イタロ・ダ・シウヴァさんが５日、グローボ局の報道番組「ファンタスチコ」で声明を発表。「恥をかいたし、死ぬかとも思った。僕は逮捕されるほどの過ちを犯したかもしれないが、あのような辱めを受けるには値しない」と抗議した。軍警への世間の目が更に厳しくなりそうだ。◎

５日のサッカーの全国選手権。イタケロンでのグレミオ戦をコリンチャンスは１―１で引き分けた。これでコリンチャンスは今期の５位以上が決定。リベルタドーレス杯には進出できるが、予選なしでグループ・リーグに入れる４位以上になれるかは残り試合次第だ。一方、名門グレミオは、９７・５％の確率で２部降格の危機となった。

聖州 来年に新たな博物館開館

ファヴェーラや先住民など

聖州は６日、「性の多様性」の博物館の拡張と、ファヴェーラと先住民に関する新たな博物館２館の設立を発表した。６日付伯字サイトが報じている。

これは６日午前、ジョアン・ドリア知事も同席した州の記者会見で明らかにされたものだ。

それによると、聖州政府は、聖市中央部レプブリカにある「性の多様性博物館」を来年早々に改築し、１００平米の展示室を５４０平米に拡張。来年６月に再オープンする予定だという。

「単に拡大するだけでなく、運営方針やプログラムにも手を加え、ＬＧＢＴＱのコミュニティ全体が満足できるものにするつもりだ」と、セルジオ・サー・レイトン文化局長は語っている。

「性の多様性博物館」は２０１２年に現在の場所に建てられた。ジェラウド・アウキミン知事時代の２０１４年にパウリスタ大通りへの移転を宣言されたが、昨年８月、その場所に料理博物館が作られたことで聖市内のＬＧＢＴＱ関係者から強い批判が上がっていた。

また、二つの新しい博物館のうち、ファヴェーラに関する展示やライブラリー、起業家精神センターなどを備えた博物館は、聖市中央部のカンポス・エリーゼオスに８２０８平米を確保し、１５００万レアルをかけて造られる。開館は２０２２年６月の予定だ。

また、先住民文化博物館は聖市西部のアグア・ダ・ブランカ公園の隣にできる予定のベイビー・バリオネ総合施設内に造られる見込みだ。総工費は１４００万レアルで、２０２２年３月に開館予定だ。

●サンパウロ日伯援護協会「本部事務局」
TEL: (11) 3274-6483
朝8時から午後5時まで。日本語対応可。相談内容に応じて、福祉士などに回す。

□緊急時の連絡先□

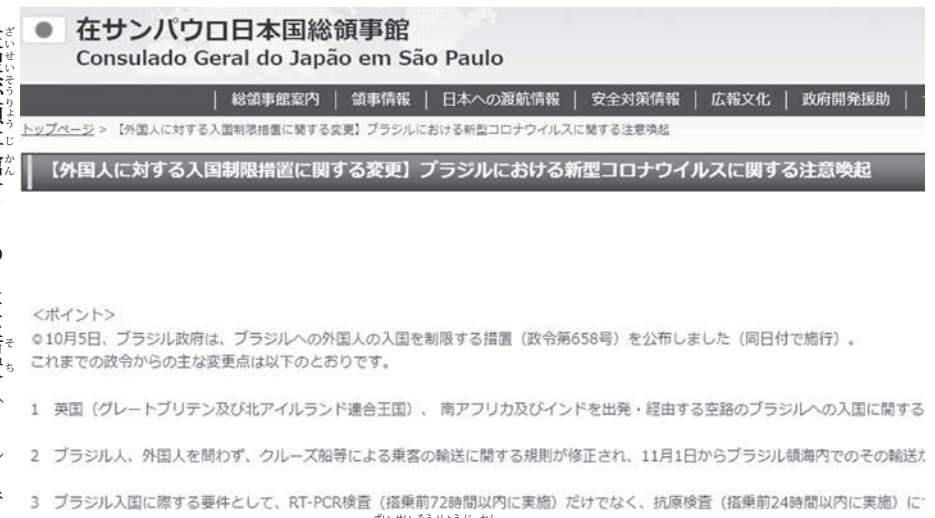
●サンタクルス病院
「新型コロナウイルス感染症の緊急外来受診のためのコールセンター」
TEL: (11) 97572-4602　日本語対応、24時間。

●万が一、医療機関等に隔離され、日本政府の援護が必要な場合の在外公館の連絡先リスト
⇒在ブラジル大使館（連邦区、ゴイアス州、トカンチンス州）
代表電話 (61) 3442-4200 ／ 夜間連絡先：ブラジル国内から（地域番号なし）4003-2142
サイト： https://www.br.emb-japan.go.jp/itprtop_ja/index.html
⇒在サンパウロ総領事館（サンパウロ州、マト・グロッソ州、マト・グロッソ・ド・スール州、三角ミナス地域）
代表電話 (11) 3254-0100　サイト：https://www.sp.br.emb-japan.go.jp/itprtop_ja/index.html
⇒在クリチバ総領事館（パラナ州、サンタ・カタリーナ州）
代表電話 (41) 3322-4919　サイト：https://www.curitiba.br.emb-japan.go.jp/itprtop_ja/index.html
⇒在ベレン領事事務所（パラ州、マラニョン州、アマパ州、ピアウイ州）
代表電話 (91) 3249-3344　サイト：https://www.belem.br.emb-japan.go.jp/itprtop_ja/index.html
⇒在リオデジャネイロ総領事館（リオデジャネイロ州、エスピリト・サント州、ミナス・ジェライス州）
代表電話：(41) 3322-4919 ／ 受付時間外及び休館日：ブラジル国内から (0) 21-3461-9595
サイト：https://www.rio.br.emb-japan.go.jp/itprtop_ja/index.html
⇒在ポルトアレグレ領事事務所（リオ・グランデ・ド・スール州）
代表電話：(51) 3334-1299　サイト：https://www.curitiba.br.emb-japan.go.jp/itpr_ja/00_000040.html
⇒在マナウス総領事館（アマゾナス州、ロンドニア州、ロライマ州、アクレ州）
代表電話：(92) 3232-2000　サイト：https://www.manaus.br.emb-japan.go.jp/itprtop_ja/index.html
⇒在レシフェ総領事館（セアラー州、リオ・グランデ・ド・ノルテ州、セルジッペ州、ペルナンブコ州、アラゴアス州、バイア州、パライバ州）
代表電話：(81) 3049-8300　サイト：https://www.recife.br.emb-japan.go.jp/itprtop_ja/index.html

なぜ三世は日本就労できないのか（２）

新しく現れた「審査済証」の壁

在聖総領事館サイトの２０２１年１１月５日の「水際対策強化に係る新たな措置（１９）」では、商用・就労目的の短期的な滞在や就労・留学・技能実習等の長期的な滞在について、受入責任者を通じて各業所管官庁による審査を受ける（「審査済証」を取得）との要件の下で、入国者総数の枠内で新規入国が認められると公表された。



在聖総領事館のサイト

しかし、１１月２９日にオミクロン株の影響による「水際対策強化に係る新たな措置（２０）」が公表され、再び査証申請が一時停止された。

２０２１年１１月５日から２９日までの約３週間は、在聖総領事館も、「査証については、受入責任者を通じて各業所管省庁による審査を受けた後、申請者が査証申請に必要な書類と「審査済証」を持って、在外公館に査証申請をすることが可能です。日系三世の方もこの仕組みを利用できます」と説明していた。

だが、オミクロン株の出現で、「２０２１年１１月２９日の「水際対策強化に係る新たな措置（２０）」に基づき、「審査済証」の申請の受付及び審査が令和３年１２月３１日まで停止されており、現在『審査済証』での査証申請は受理しておりません」と、一歩前進した入国制限措置は後戻りした。

査証手続きの代行も行っている人材派遣会社アバンセ・ド・ブラジルは、「この『審査済証』を持っている三世の方は査証申請が可能となりました。ですが、その手続きが難しく、実際に上手く進められている方は少ないのが現状でした。しかし、亀の歩みで手続きを再開していたところ、今度は２９日の水際対策措置により、再び日本への渡航中止の手続きを進めなければならなくなりました」と、オミクロン株により、日系三世も在聖総領事館も人材派遣会社も右往左往させられている状況を説明した。

ブラジルの高い生活費や不安定な収入

日系三世の早川エリカさん（仮称、３２歳）は、非日系人の夫レアンドロさん（仮称、３２歳）とともに日本で就労し、その後は日本に定住したいという思いがある。

早川さん夫婦は、２０１９年５月に１カ月間、東京を中心に旅行した。治安の心配がなく、よく整備された清潔な日本の環境を気に入り、改めて日本に行きたいと思い始めた。夫婦は２０２０年１２月に査証申請を行い、翌年４月には日本で就労する予定だったが、２０２０年１２月２８日に日本政府が査証申請の受付を一時停止したことで、それは実現しなかった。

夫婦ともに、大学卒業後は化学関係の調査や研究の仕事に携わり、エリカさんは日本への旅行前に退職し、現在まで就職していない。レアンドロさんは、今も米国の多国籍企業に勤務している。

「大学院で博士号を取得し、ブラジルで会社勤めをしてきましたが、給料はとても安く、生活費は高くなる一方です」と、ブラジルでの生活に先が見通せない。専門職を志して勉強してきたが、ブラジルでのサラリーマン生活は不安定で物価は上昇し続けるのに給料は上がらない。

「サンパウロの自宅から勤務する工場まで、車で片道２時間以上かかります。しかし、交通費は会社から３０パーセントしか支給されません。ガソリン代は高騰するし、肉や野菜も値上がりしています。とても安心して子供を産み育てられる状況でもありません」と話す。

新たな書類「審査済証」の壁

エリカさんは、父親のいとこが福井県と愛知県で長年働いて暮らしており、本人は福井県か島根県での勤務を希望している。

レアンドロさんは、日本のアニメがずっと好きで、日本を旅行した時も人々がとても親切で、すっかり日本に魅せられた。夫婦ともに外国語は英語しかできず、日本語はあいさつ程度だが、日本文化には興味津々の様子。日本語を学び、日本で友人を作ることにも前向きだ。

「新たに必要とされた『審査済証』を取得するのにとても手間がかかります。また、１年前に査証申請のために用意した書類の有効期限も切れて使用できないのではないかと、同じ状況にある人は皆心配しています」。エリカさんはパンデミックがさらに落ち着くのを願いつつ、日本政府の今後の方針に希望を託す。

（大浦智子記者、続く）

手続きが難しい書類を条件に

日本文化の絵付き暦販売

滋賀県人会、売上全て寄付

滋賀県人会（山田康夫会長）は、２０２２年オリジナルカレンダーを販売中。このカレンダーは月めくり使用。同会員の本郷園子さんがその月にあった日本文化と季節にちなんだイラストを各ページに描いており、日本文化についても日ポ語での説明が付け加えられている。

このカレンダーは一冊２５レアルで販売しており、売上はすべてコロナ禍で困難を抱える日系団体に寄付するという。尚、遠方にも郵送料別途で送付が可能。

山田会長は、「全ページかわいいイラストが載っていて、日本文化も知ることができます。売上は全額寄付。ぜひ皆さんご協力ください！」

その月の行事の説明が両語で入っている

このオリジナルカレンダーの購入希望者は電話・ワッツアップ（１１・９８４０８・６５７０）、メール（shigakenjinkaibrazil@gmail.com）まで連絡を。

鈴木清美さん

パラナ州ロンドリーナ市在住の鈴木清美さん（二世）が、今月４日１４時に市内の病院で癌により亡くなった。享年７５歳。５日に家族と知人のみで告別式を行いアラマンダス公園墓地（Cemiterio e Crematorio Parque das Allamandas）に埋葬された。

清美さんは、最後の笠戸丸移民生存者であった中川トミさんの四女。生前は、ロンドリーナ文化体育協会（ACEL）に所属し、同協会高齢者の集いのイベントを企画や、同協会開催の運動会の企画など精力的に活動していた。同文協の元会長、鈴木勇さんの妻。

清美さんは５０歳を過ぎてから南米大会のシニア部門に参加するようになり、これまで槍投げ、円盤投げ、砲丸投げなどの大会で優勝を重ねている、シニア陸上のアスリートだった。

鈴木さんは、１年半ほど前から癌の闘病生活を行っていたが、４日に容体が悪くなり息を引き取った。

初七日ミサは、親族と関係者のみで１０日に予定している。

ジャカレイ文協

名物やきそばの味を再び

第２回ＹＡＫＩドライブスルー

聖州ジャカレイ市のジャカレイ日伯文化体育協会（早川功会長）は１１月６日、『第２回ＹＡＫＩドライブスルー』を行った。名物の美味しいやきそばやどら焼き、焼き鳥などが販売され、受け渡しもされた。

パンデミックが収まり始めてから再開された『ＹＡＫＩドライブスルー』。以前から行われていたが、コロナ禍により中止されていた。少しでも街の人々に、同文協が作る日本の味を届けようという思いを込めて行われた。早川功文協会長は「今回のイベントでは前回のようにパスタの不足はなかった。お客様も満足したに違いない」と自信を見せた。

同青年部の向畑カロリーネなつみ部長は、前向きな姿勢で「以前より物事や時間の整理が上手く出来て非常によかった」と語り、アウヴケルケ・ダニエル事務員は「売り上げは好調だった。イベントは大成功に終わり以前に比べて問題も少なかった」との好感触を受けた様子。

毎回参加する三浦美恵子さん（５３）は、「私たちもやきそばを頂いた。とても美味しかった。何よりも、若い人たちが婦人部と一緒に頑張る姿がとても喜ばしかった」と感想を述べた。

以前は、婦人部がやきそばとどら焼きを作り、青年部は焼き鳥を作るといった分担作業がなされていた。だが、コロナの影響で高齢者が中心だった婦人部が参加できなくなり、代わりに青年部が大半の活動をこなすようになった。これをきっかけに文協における青年部の存在が大きくなった。早川会長は「青年部は素晴らしい仕事をしている。皆責任をもって、喜びと笑顔で仕事をこなしている」と感心していた。

このように、大きな役割を果たしている青年部の今後の活動について、同会長は「青年部は経験が豊富な人が若い人に知識を伝えている。彼らは一生続く素晴らしい関係と友情を築くだろう。これらの機会を作るのが日本人会の役目の一つである」と抱負を語った。

向畑部長は「青年部は次世代の文協を背負うものである。日本文化を次の世代に引き継ぐことが私たちの役割である」と継続に対する熱い思いを打ち明けた。

大活躍した青年部の皆さん

婦人部の皆さん

同青年会は１９４４年「様々なスポーツイベント」に若者が参加して始まったが、１９５０年１２月２０日にＢＢＣＪ（Base Ball Club Jacarei）が設立され、１９５１年５月２３日に正式に設立された。

２００４年に改名され、現在は青年部と呼ばれている。同文協での全てのイベントを支えつつ、独自の行事も行っている。青年部が主催する主なイベントは、運動会と七夕・盆踊りで、後者には日本の伝統である七夕とブラジルのフェスタジュニーナが混ざり合っている。

Lighthouse 主催 オンラインセミナー 無料・要予約
日本への本帰国準備
＆2拠点生活を考えるフェア
「および回遊型生活」
12/15(水)、17(金)
11pm-2am（ブラジリア時間）
リタイア後の日本への本帰国や、観光、出張、リモートワークなどでの日本との2拠点生活など、私たちの生活様式は多様化しています。将来の住み方を考える皆様へ、専門家が最新情報をオンラインでお届けします。
詳細・お申し込みは下記ウェブサイトまたは QR コードよりどうぞ ★事前予約が必要です。
https://bit.ly/KIKOKU2021 事前の質問もお待ちしております。
seminar@us-lighthouse.com お申し込みにお手伝いが必要な方、お問い合わせは左記のアドレスに Eメールをお送りください。

繁田一家の残党

ハナブサ アキラ

（24）

正月明けの日に、さんさんと注ぐ陽光の甲板に日大ラグビー部のジャージーを着た男が居た。なんと、我が繁田一家の巻寿司の一級下の丹下君だったが、ホノルルで下船した。この男は現在、八丈島でリゾートの経営している。

ホノルル到着！初めての外国、なんとゆう感激。下船した場所にある案内所の金髪の女性からレイを首にかけてもらうついでに頬っぺたにも軽く口付けしてもらった。

アメリカでは単なる挨拶なのだが、天にも登る心地。ヌアヌパリの展望台で、金髪をなびかせる娘らのグループと写真をとった。彼女らはハワイの太陽の様に明るく、日本人の様な恥ずかしさはみじんもない。あまり言葉は通じなかったが、それでも楽しかった。

ダイヤモンドヘッドやパンチボール等の観光地を回り、夜はハワイアン・ビレッジで地元料理の子豚の丸焼きを楽しんだ。９ドルの値段には高くて驚いたが、フラダンス・ショー込みのパッケージで当時の為替レートでは１ドルは３６０円。

明学に通っていた一人息子を亡くし、悲しみを忘れるためにハワイに来た同船者の老夫妻も、ハワイアンビレッジ内にあるヒルトンホテルにチェックインされ、夕食に来ていて思いがけなく再会した。船内で３泊し、ハワイ滞在を満喫した。

ロサンゼルスにも３日停泊の予定で、ワイ等は案内書を読み、大村一家と観光計画をたてた。大村政之さんは、フォークリフトのトップメーカー・東洋運搬機熊本営業所を退職しサンパウロ州ピンダモニアンバーガに農場を持つ実兄の許に移住し、お兄さんに仕事を探してもら予定らしい。

大村さんの勤務先が、東芝放射線熊本営業所と同じビルにあり、事務所が隣り合わせで達磨とは親しくしてた。世の中ほんまに狭いもんや、世界人類、皆兄弟！

政之さんは、岡山出身でモトラジオに行く工業移民の柳生義夫（ＹＹ）、貨物船の無線技師を辞めリオで事業をする上野さん、行く当ての無い催氏の４人で毎日日夜麻雀に没頭。大村さんと上野さんに、どうぞどうぞと言われるまま、ワイは殆んど毎晩、大村夫人の三枝子さん、上野夫人のダンス相手をした。

上野さんには可愛い女の子が居て、何年後かに再会した時にはフランスのソルボンヌ大学に留学してた。両親は日本に一度も帰ったことが無いというのに。移住しても日本人は子供の教育を優先させる。

船内で、政之君はパラグアイに行く指圧師の八巻氏に魔法をかけられたように無意識で手足をばたばたさせ痩せる療法に没頭していた。移住事業団の藤原さんの船室では創価学会の会員が集まり、お経を唱えていた。

ロサンゼルスでは藤原さんが観光バスをチャーターし、デイズニー・ランドとリトル東京に出かけた。文字通り夢のようなミッキーマウスの楽園で楽しんだ直後に、見るからにみすぼらしい日本人町に、自分の将来を暗示されたようで気分が滅入った。

後日、ロサンゼルスに転勤になって目の当たりにした、想像もしなかった超近代的に景観を変えたリトル東京は、その時期には予測もつかなかった。日本の高度経済成長が、海外の日本人の生活レベルまで上げてしまったのだろう。

翌日、レンタカーでミス・ユニバースで名高いロングビーチ周辺の高級住宅街をドライブし、夢のようなアメリカを垣間見て、もうブラジルに行かずに、ここで下船しようかなと思わないでもなかった。

旅順大連生れとは

サンパウロ　三宅信夫

私は大正六年八月十七日、旅順市営の病院で生まれました。この八月十七日で、満百四歳になりました。内助の功に感謝しています。

自粛生活でボケない様に、約十年前の出来事を書きます。

ある日メトロに知人と乗り、到着まで世間話でもしようと思ったら、別の乗客が「へーあの人、○○人かー」と話しているのが聞こえた。乗客は私を○○人と思っているようだ。

私の実母きよは士族の生まれです。○○人と思われては何か変な感じがします。

今から丁度十年前、知り合いのおばさんと街路で出会い「やっぱりあんたは日本人だわい」と妙な事を言われたことを思い出します。

新聞に「日本国籍を持った父母から生れた子供は、無条件で「日本国民」となる。ブラジルでは、両親が外国人でも、自動的にブラジル人となる」と書いてありました（どの新聞だったか覚えていません）。

当時の私はこの新聞を同胞の間に持って回りました。すると皆「そうだ。そうだ」という目をして読んでいました。

旅順大連は日露戦後、日本の領土となりました。ですから遼東半島で数多く生まれた子供たちは皆日本人です。支那という言葉は自然消滅して、今は皆さんご存知の中国という言い方をします。時代は変わりました。

話が前後しますが、父は店をやりながら、謡曲の師匠でした。観世音九番弟子の免許を持っていました。

父は昭和の始めごろ、関東軍の若い将校（陸軍中尉、大尉、少佐）たちを週一回指導していました。将校たちは号令をかけるのに必要だったのでしょう、発声法の勉強で唸っていました。

私は将校たちの溌剌とした姿に憧れ、自分も陸軍幼年学校に入りたいと思っていました。

しかし父は、将校たちとの世間話などから「これは大きな戦争が始まるぞ」と洞察し、ブラジル行きを決断しました。そのおかげで私は今、毎日おいしいコーヒーを飲んでいます。

話変わって家族について。私の家内は水戸生れの一世、今年で九十九歳です。家族は二世、三世、四世と皆日系ブラジル人です。各自、家を持って居るので、住所は離れ離れです。

少し孫自慢をさせてください。孫娘は医者（聖市在）をしています。その弟は日本名で幸夫、米国のマイアミに本店がある会社に勤め、サンパウロ州の支店長として十余年務めています。息子はある地方都市に住み、そこから指揮しています。英語、スペイン語はペラペラ。

幸夫の息子、ひ孫のルカ（五歳）は自転車で思い切り走り回り「サンパウロは狭いよ」と言っています。テニスもやっているそうです。妹のエヴェリンみえ（二歳）は英語の歌が得意で、爺さん婆さんは歌を聴いてびっくり。涙を流して喜んだひと時でした。

最後にブラジルの政治について。ブラジルの政治家は汚職が多く、「あいつがするならおれもやる」という汚い根性のスカンダロだらけ。そんなのわしはスカン！！

ブラジルは、サッカーとなると大人も子供も夢中になるという麗しい国民性があります。私はこのブラジルに愛国心を抱いております。

光陰矢の如し　花には、水をやらないと枯れてしまいます。人間も水を飲まないと枯れてしまいます。おおいに飲みましょう。午後はひかえ目に、水道の水は駄目です、水屋の水を買って飲みましょう。

浮き雲の話（私の移民史）（2）

スザノ　松野常蔵

片田舎から出て来た子供にはただただ天地が引っくり返るような出来事だった。埠頭には、私たちの知人は居ないのだ。叔母（母の妹）たちはまだ船も動かぬうちから船酔いして棚式の寝床にいた。船が動き出すとゲーゲー吐いた。

船では三度の食事が出た。食事の時間にはカネを鳴らして知らせるが、船酔いでフラフラしている叔母たちが食堂へ行っても先に行った人たちが美味しいおかずを食べてしまい、残っているのはマンマと漬物だけだったと云う。

航海中は運動会、芝居、赤道祭、仮装行列などしながら、四十日余りかかってブラジルに着いた。

リオ・デ・ジャネイロ丸がサントスに入港して私達は船から降りるときの様子は覚えているが降りてからどうしたか、その辺は記憶にない。私の乾式手帳には一九三五年十月三〇日入国と書いてある。

サントスから汽車に乗るとまず海岸山脈を登る。鉄道は急勾配になるので大仕掛けな設備があって、汽車は太い鋼鉄ロープで引っ張って昇り降りをする。なんだかわからないが大人たちが大騒ぎしていた事は覚えている。

サンパウロ市の移民収容所は？――というと、全然おぼえていない。そして、移民たちを乗せた汽車はブラジルの大陸を、奥地に向かって夜通し走っていた。

眠れないのか車内はいつもざわめいていた。夜の景色は何も見えない。汽車は泣くような長い汽笛を鳴らしながら走っていた。あの汽笛は哀愁となって今も尚私の耳に残っている。

俄かに大きなざわめきが起きた。暗い汽車の窓から遠くの方に山焼きの大きな赤い火が見えたのだ。山焼きはブラジルでは普通にある事だが、移民たちには驚きだった。

子供の私にも印象は強く今でも目を閉じると見えてくる。

移民たちにはサンドイッチが配給されたがパンに挟んだモルタデーラの白い脂肪が食べられなくて、そこだけ捨てて残りを食べたという話を聞いた。

汽車は時折停車するが母や叔母たちは毛布を被って仮眠していた。

電燈もうす暗い、小さなプラットホームの駅に着いた。この駅では私たちを含め、たくさんの家族が降り、混雑していた。迷子になったら大変なので、私は父ちゃんの袖にしっかり掴まっていた。

この時の話をばあちゃんに聞いたことがある。

「大人でもとても心細かった。あたりには建物も見えない。名もわからない山の中の駅だったのだもの」。

ばあちゃんの不安はつのるばかり。家族が固まって歩き始めたとき「松野さん」と呼ぶ人が居た。その人は一年前に移住した同郷の人だった。

投稿者におねがい

◎新聞や雑誌の文章を書き写したものは、著作権侵害となります。一部引用する事は可能ですが、その際は引用部分を分かりやすく明記し、出典を記入して下さい。

◎読みやすい書体で１千字以内にまとめてください。多すぎる場合は掲載できないことがあります。

◎写真の掲載も可能です。ただし、返却はできませんので、あらかじめコピーを取るようにして下さい。

◎順番に掲載しておりますので、掲載が遅れることがあります。ご了承下さい。

◎電話番号と住所をご記入ください。

◎Ｅ・メールでの投稿を歓迎します。

◎送り先はニッケイ新聞「ぷらっさ」係。

Ｅメール bunguei.nk@gmail.com

核兵器の現実、米国で問う

テキサス大で原爆展

【オースティン共同＝大倉喬之】米南部テキサス州の大学で広島、長崎の原爆被害を伝える写真展が開かれている。スミソニアン航空宇宙博物館（首都ワシントン）で第２次世界大戦終結５０年に合わせ企画された原爆展が退役軍人団体の強硬な反発に遭い、事実上の中止に追い込まれてから四半世紀。当時の激しい論争とは無縁の静かな空間で、数々の写真は核兵器の非人道性、暴力性を見る者に鋭く訴え掛けている。

「閃光、炎の壁」と題された写真展はテキサス大オースティン校が、原爆の悲惨な被害を後世に伝えようと日本の写真家らが始めた「反核・写真運動」と協力して実現した。６９点の写真は大半が米国初公開で、一瞬にして焦土と化した「きのこ雲の下」の惨状が克明に写し出されている。

爆心地近くの小学校の校庭に遺骨が並ぶ様子を収めた写真もある。南部ルイジアナ州の大学で歴史などを学ぶティファニー・トーマスさん（５０）は「涙せずにいられなかった。非常に心を揺さぶられる内容。多くの人が見なければいけない」と声を詰まらせた。

１９９５年１月、原爆投下機「エノラ・ゲイ」展の開幕を数カ月後に控えていたスミソニアン博物館は、被爆した人々の惨状や遺品を展示する当初の計画を断念した。日本に過度に同情的で米軍を侮辱しているとの退役軍人団体の強い批判に屈した形で、一連の「スミソニアン論争」は米国で原爆被害に光を当てることの難しさを国内外に強く印象付けた。

写真展の実現に当たり、同校ブリスコー米国史センターのドン・カールトン館長（７４）も「正直、不安はあった」と打ち明ける。議論を経て開催を決断したのは、核戦争とは何かを若い世代に知ってもらう必要があると考えたためだ。

「９５年にこの展示をしていたら多くの問題に直面しただろう。だが時は移ろい、当時の世代は（多くが）鬼籍に入った」とカールトン館長。太平洋の死線を越え生き延びた元兵士らが抱き、広く共有された強い忌避感は薄れ、原爆被害を扱うことはかつてほど難しくはなくなった。その半面、若者が戦争の残酷な実相に触れる機会も減った。

原爆投下は正しい決断だったとする見方は依然根強く、カールトン館長はその是非を議論する意図はないとも説明する。しかしプロジェクトチームの一人、同校博士課程のベン・ライトさん（３９）は、核爆弾の使用がこの先「必要な決断」とはなり得ないことを広島、長崎の写真は示していると指摘。「同じことが再び起きてはいけない。その点に論争はない」と強調した。

米テキサス大オースティン校で開催中の原爆写真展を紹介するドン・カールトン館長（右）とベン・ライトさん（共同）

ばかな戦争、憤り消えず

軍需工場空襲、九死に一生

無数の銃弾の痕が残る、旧日立航空機立川工場の変電所だった建物と宮下貞美さん（共同）

【共同】「勝てるわけがなかったんだ。ばかな戦争をしたもんだ」。太平洋戦争中、現在の東京都東大和市にあった旧日立航空機立川工場で働き、空襲で九死に一生を得た宮下貞美さん（９１）＝横浜市＝は、そんな思いが消えない。開戦から８０年の８日を前に工場跡地を訪れ、憤った。

「ここに食堂、あそこまで工場があったな」。宮下さんは今月３日、団地や公園が広がる跡地を歩き、記憶をたどった。当時を物語るのは、無数の機銃掃射の痕を残す鉄筋コンクリート２階建ての旧変電所だけだ。市民らの要望で保存が決まり、１０月２０日から一般公開されている。

宮下さんは現在の長野県高森町出身。４人兄弟の末っ子で、駅で日の丸の小さな旗を手に、万歳をして出征する兵士を見送った。「日本は戦争に勝つ」と信じていた。国民学校では同級生とともに、教員から「広い土地がある」と満州（現中国東北部）への移民を勧められた。同級生は受け入れたが、宮下さんは「兄のいる東京で大きな会社に勤めたい」と断った。教員には「国賊だ」と罵倒された。

１９４４年４月、１４歳だった宮下さんは軍用機のエンジンを造る日立航空機に入社。上京して寮に住み込み、立川工場で部品の研磨に携わった。敷地に飾られた２台の戦闘機は、３９年のノモンハン事件で「活躍した」と上司に教えられ、近隣の飛行機メーカーが製造した軍用機を見ては「すごいな。大きいな」と感動した。

最初の空襲は４５年２月の昼前。夜勤明けに寮で寝ていると、ごう音で目が覚めた。音が小さくなるのを待って、寮を飛び出した。米軍機が近づいてくる。「早く来い」。先輩が手招きする防空壕に滑り込んだ。寮の隣の社宅に着弾するなどし、勤労動員の学生を含む工場関係者７０人余りが犠牲になった。道場にけが人や遺体が担架で運ばれるのを見た。

空襲は同年４月も続いた。ガラガラガラ、シュー、ズドーン。Ｂ２９爆撃機が約１８００発の爆弾を落とした。「あの音は忘れない。怖かったですよ」。避難先の山で頭を抱え、座り込んだ。工場はがれきになった。

戦後、旧ソ連軍が侵攻した満州から同級生は引き揚げられず、亡くなったと聞いた。「中国と戦争していたのに米国とも戦った。日本はぼろぼろになった。惨めだよ」。宮下さんはつぶやいた。

語り継ぐ極秘訓練地の歴史

真珠湾攻撃の潜航艇、愛媛

【共同】愛媛県伊方町の三机湾は、１９４１年１２月の真珠湾攻撃に加わった旧日本海軍の「特殊潜航艇」の極秘訓練地だった。太平洋戦争の発端となった同攻撃から８日（現地時間７日）で８０年。地元住民らは「平和のために」「戦争の事実を知り考えてほしい」と、訓練や搭乗員の戦死の歴史を語り継いでいる。

三机湾は佐田岬半島のほぼ中央に位置。住民らによると、地形や周辺の人の出入りが少なかったことから訓練地に選ばれた。出撃した２人乗り特殊潜航艇「甲標的」５隻の２０代搭乗員計１０人のうち、９人が戦死し、戦意高揚のため「九軍神」とたたえられた。しかし軍は、残る１人が太平洋戦争初の日本人捕虜になったことを隠蔽した。

搭乗員らが訓練時に宿泊した伊方町三机の「岩宮旅館」では、写真や手紙など搭乗員に関連する資料を展示している。地元の中学生が平和学習で訪れる他、宿泊客らへの説明もしているという。

現在のおかみの山本恵子さんは「当時、搭乗員らをもてなした祖母（故人）から話を聞いていた。私は戦争を経験していないが、今後も引き継いでいきたい」と話す。

湾を一望する須賀公園には戦死した搭乗員の慰霊碑があり、地元青年団が約６０年前から碑の前で慰霊祭を続けている。慰霊祭で神事を行う地元神社宮司の井上恒男さん（７０）は「三机に住む者として、語り継ぐ責任がある」と話す。

井上さんは平和学習で講師役を務め、慰霊碑への観光客らの案内も続けている。「やっていい戦争はない。若い９人が犠牲になった事実を知り、平和を考えてほしい」と語った。

青年団団長の松沢法久さん（４２）は「若い青年団の主催に意味があり、今後も続けて平和につなげたい」と強調した。

今年の慰霊祭は新型コロナウイルス感染防止のため、地元住民だけで神事を行う。また、捕虜になった搭乗員の足跡を知ってほしいと有志が公園に新たに設置した史跡碑の除幕式も別途、行われる予定。

印刷版読者限定
セルラーで新聞を読もう!!
Whatsappで配信中

樺太の記憶、映像で後世に

引き揚げ７５年、学生が奮闘

【共同】太平洋戦争の終戦時、約４０万人の邦人が居住していた南樺太（現ロシア・サハリン南部）からの集団引き揚げが始まって５日で７５年。樺太の歴史伝承を続けてきた「全国樺太連盟」が３月に解散し、記憶の風化への懸念が強まる中、北海道稚内市の大学生が引き揚げ者の証言や手記などを基に映像を制作し、後世に残そうと奮闘している。

「私の苦しみは終戦の翌日から始まった」。稚内北星学園大の学生が作った約３０分の映像作品「あの日、ニレの木の下で」は樺太の恵須取町（現ウグレゴルスク）の病院で副婦長を務めた故鳴海寿美さんの人生をたどったドキュメンタリー。映像は鳴海さんの手記につづられた言葉で始まる。

１９４５年８月９日、旧ソ連軍は南樺太に侵攻。逃げ遅れた２３人の看護師は１７日、ニレの木の下で手首をメスで切るなどして集団自決を図り６人が死亡した。生存者の一人だった鳴海さんは４７年に北海道に引き揚げ、新冠町で傷を隠しながら助産師として働いた。

同大は２０１４年から樺太の歴史を後世に伝える取り組みを続けてきた。指導する情報メディア学部牧野竜二非常勤講師（３７）によると、死と隣り合わせの経験をした引き揚げ者は口を閉ざすことも多く、若者がその苦難を知る機会は少ない。

そのため学生は歴史を学ぶところから始め、当事者の証言を収録したりして映像を制作。ただ近年は引き揚げ者の高齢化や新型コロナウイルスの感染拡大もあり、当事者に直接話を聞くことが難しくなっているという。

「あの日、ニレの木の下で」は今年５月に完成。同大の取り組みや完成度の高さが評価され、道内の映像コンテストの学生部門で最優秀賞を獲得。本年度も終戦後の樺太で日本人とソ連人が「混住」したことを題材にした作品制作に挑戦中だ。

受賞作の制作メンバーで福島県出身の３年緑川大海さん（２０）は「自決を選ぶという精神が現代とはかけ離れすぎていて、衝撃だった」と振り返り「悲惨な出来事があったのに、樺太のことはあまり知られていない。映像を通し、これからの世代が考えるきっかけになれば」と思いを込めた。

福島で小学生ミカン狩り

９割住民帰還の広野町

たわわに実ったミカンをもぐ地元小学生ら＝６日午前、福島県広野町（共同）

【共同】東京電力福島第１原発事故で住民が一時避難し、９割が帰還した福島県広野町で６日、地元の小学生３５人がミカン狩りを楽しんだ。好天の下、太平洋を見渡す高台にある町営ミカン畑で大きく育った実をもいだ４年生の村上貴美さん（１０）は「甘酸っぱくておいしい。お父さんの誕生日ケーキに入れたい」とはにかんだ。

東北地方では温暖な広野町は、ミカンをシンボルとして三十数年前から町ぐるみで育てている。ミカン狩りは原発事故で中断したが、除染して２０１３年に再開。今年の検査でも放射性物質は検出限界値未満だった。

広野町は第１原発の南２０～３０キロ圏にあり町独自の避難指示を出し、約１年後に解除した。

《記者コラム》

樹海

拡大版

主催者と講演者の皆さん（右が本田イズム実行委員長）

救済会が感染予防イベントをする意味

「第2次大戦中に交換船が来たとき、『移民が残るんだから自分も残る』と言って日本人救済会を作った宮越さんがいてくれたから、今のような憩の園があります。原点を作ってくれたのは宮越さんだと改めて感謝の気持ちがわいています」

元救済会会長の吉安園子さんがそう言うのを聞きながら、会場の特設スタジオに並ぶブラジル社会の有名人の顔を見て、移民史の奥深さと時代の移り変わりの激しさをしみじみ感じた。

宮腰千葉太氏（1892―1972年）は元外交官で、退官後に海外興業株式会社サンパウロ支店長となった。1942年1月にブラジルが枢軸国と国交断絶をした際、外交官は交換船で本国に引き揚げた。だが、宮腰氏は妻子を交換船で帰したが、自らは「自分たちが送り込んだ日本移民が残るんだから」とその保護のために残った。

同年、渡辺マルガリーダ氏らと共に救済会の前身「サンパウロ市カトリック日本人救済会」を設立。同救済会はキリスト教会による庇護の下、戦時中でも唯一活動を続けられる日系団体として、日本移民の収監者への差し入れ、貧窮者の援助などあらゆる救済活動を一手に引き受けた。

いわば、本来なら総領事館の邦人保護班がするべき仕事を全て行っていた〝民間総領事館〟だった。

戦時中、救済会による支援を受けた日本移民は数万人もいたと言われる。サントス強制立退き事件だけでも6500人の日本移民が差し入れなどの援護を受けた。

戦後、サンパウロ日伯援護協会などの各福祉団体が誕生する中で、その事業を高齢者福祉に絞り、移民50周年（1958年）の機に日系高齢者福祉施設「憩の園」を設立した。

その「憩の園」が11月28日、感謝ライブ『みんな一緒にコロナに備えながら元気よく生きましょう』を開催した。聖市ニッケイパレスホテルを会場に、ユーチューブ生配信が行われ、日本語同時通訳が付いた。

今回の感謝ライブを会場で見た招待客は200人余り、ユーチューブでオンライン視聴した人は同29日時点でポルトガル語版3634人（https://www.youtube.com/watch?v=TNJrF854SVY）、日本語版1009人（https://www.youtube.com/watch?v=cpWkoNWOAF4）だと言う。

本間氏

27日と28日には同ホテルの伯式地上階サロンで北海道協会、埼玉県人会、東京都友会、愛知県人会、大分県人会が「5郷土料理販売」を行い、お客さんが計1600人ほども訪れた。ブラジル健康体操協会や平田ノブヒロによる歌唱、ヴィニシウス・サダオの三味線伴奏、心響太鼓による演奏で盛り上げた。

そうそうたる有名人が一肌脱ぐ

ライブの司会進行を務めたのが、なんと元グローボTVアナウンサーのマルシオ・ゴメス氏だ。現在はCNNテレビ局のアンカーをしている。2013年からグローボTV特派員として東京に5年間も駐在し、本国にニュースを伝えた日本事情通でもある。

他にも、ブラジル社会の第一線で活躍する著名な日系人やブラジル人医師5人が座談会に登壇し、感染者や死亡者が減少傾向にある今でも感染予防を継続する必要性があることや、コロナ禍明けの生活などを中心に話をした。

マルシオ・ゴメス氏

中でも「世界のワクチン界で最も影響力を持つ50人」にブラジル人で唯一選ばれた権威ある研究者、本間晃氏（二世、82）なども、リオからわざわざ参加した。本人に聞くと、生まれは聖州奥ソロカバナのプレジデンテ・ウエンセスラウで、パウリスタ（聖州人）だ。USP生物学部で博士号取得。

知られざる日本の国際貢献
ブラジルでのポリオ麻疹撲滅に

「でも、1964年からリオに住み始め、1977年からフィオ・クルスに務め始めた。だからもうカリオカだ」と笑う。フィオ・クルスはリオに所在する連邦政府の生物学研究所で、南米におけるワクチン生産拠点として有名。今回のコロナ禍でもアストラゼネカ社のワクチンのIFA（原液）を輸入して分包する拠点となり、現在、原液生産まで業務拡大を図っている。

そんな衛生面から国を支える研究施設の理事長（1989―90年）も、本間氏はかつて務めた。現在は顧問となっているが、同研究所を代表する顔の一人であり続けるから、5年前に「世界のワクチン界で最も影響力を持つ50人」にブラジル人で唯一選ばれた。

本人に選ばれた感想を聞くと「なぜか私が選ばれたが、あれは仲間が優しいから。別にあれは私一人の仕事ではない。ブラジルのワクチン研究者には、もっとすごい人がたくさんいる」と謙遜した。

「このパンデミックでは、我々の仕事の重要さが改めて認識されたことに関しては良かったと思っている」とも。

いままで移民史や邦字紙上にまったく現れてこなかったが、傑出した日系人がまだまだ隠れていると痛感させられた。

他の登壇者としては、保健省の国家予防接種計画の委員をするレナト・キフリ氏、オズワルド・クルス財団の研究者にしてブラジル肺炎・肺結核学会の次年度会長であり昨年のオ・グローボ紙が選考する「2020年の功労者」にも選ばれたマルガレッチ・ダウコウモ氏、ラ米小児感染症学会代表のマルコ・アウレリオ・サファジ氏、ブラジル伝染病学会の小児感染症部会コーディネーターの大塚マルセロ氏など、頻繁にテレビに登場する有名人ばかりだ。

キフリ氏

そのようなメンバーを呼んで、憩の園が企画・運営する形で、オンラインイベントが開催されるようになるとは、宮腰氏もゆめゆめ思わなかったに違いない。

こんなイベントが可能になったのは、日本国外務省が海外在留邦人・現地日系人コミュニティへの感染拡大防止やビジネス環境作りを目的に実施している「海外在留邦人・日系人の生活・ビジネス基盤強化事業」に企画を申請して認可されたからだ。

コロナで父を失った本田実行委員長

当日の挨拶で、感謝ライブ実行委員長の本田イズム救済会副会長は、「父は今年の9月に91歳でコロナによって亡くなりました。パンデミックになってから父はずっと家から出ず、ワクチン接種も2回していました。父から『そろそろ外に出ても良いか』と聞かれた矢先のことでした。父の死からコロナにはまだまだ解明されていないことが多くあることを痛感させられた。奇しくも父の死の1週間後に、外務省からこの感謝ライブの企画が承認されたとの連絡を受けた。これは、もっと世の中にコロナの危険性を知らせるべきだという父からのメッセージだと感じました」との悲しい体験を吐露した。

サファジ氏は「普通は実用化するまでに5年10年かかるワクチンが、今回は1年でできたことを不安視する声を聞く。だが、今までに同類のコロナウイルスは2回パンデミックを起こしており、すでにかなり研究が進んでいた。だからその土台の上に立って、今回は超特急で新しいワクチンを作ることができた。ワクチンは感染を完全に防ぐことはできない。でも重症化を防ぐという意味では高い効果がある。必ず接種完了、補強接種を受けることを強くお薦めする」と強調した。

サファジ氏

本間氏は「今回ブラジルではワクチン原液（IFA）を輸入しなければ生産できなかった。これは国の投資が足りなかったからだ。ワクチン開発には政府のまとまった資金投入が不可欠。米国政府はワクチンに莫大な投資をしたからあんなに早く開発できた。パンデミックにおける政策不在が今回のワクチン原料外国依存を起こした」と厳しく指摘をした。さらに「このパンデミックは世界中の人がワクチンを打ち終わらないと終わらない」と述べた。

大塚氏は「パンデミックはまだ終わっていない。野外で密集していなければ、マスクを外すことも考えられる。だが屋内やメトロ、バスではまだマスクは必須」と、コロナ禍収束を先取りする風潮に釘を刺した。

ネット視聴者からの「オミクロンにはどの程度注意すべきか」という質問に対し、マルガレッチ氏は「現時点ではよく分かっていない。でも、それほど心配するものではないと思う。ウイルスは常に変異株を発生させる。それ自体、自然なことで、これからも続くこと。変異株を心配するよりも大事なのは、ワクチン接種を完了させること」と呼びかけた。

大塚氏

「日本のようにパンデミックの時に限らず、普段からマスクをする習慣がブラジルでも広まると思いますか」との質問に対し、本間氏は「日本はインフルエンザの流行が毎年起きるから、マスクを使うのが習慣化している。ブラジルは気温が高く、地域によっては40度にもなるので夏にマスクをするのは辛く、習慣化するのは難しい」との見方を示した。

マルガレッチ氏は「たしかにそうだが、マスクをする習慣は素晴らしいこと。とくに飛行機の中では必要。歯磨きと一緒にマスクは同じくらいに大事。これはブラジルでも文化になってほしい」とつけ加え、昨年来、コロナ以外の呼吸器疾患一般の感染率が非常に低く抑えられていることを強調し、マスクの効用を高く評価した。

JICAがワクチン製造の支援した歴史

本間氏は「このパンデミックで生まれた技術や衛生に関する一般常識は、次のパンデミックにも使える。とても貴重なもの」と前向きな評価をし、次のように日本政府の貢献を高く褒めた。

「私がドイツ留学を終えて、フィオ・クルスに入った頃、生産されているワクチンはたった1種類、研究されている医薬品も当時は獣医学関係が中心だった。だが、1980年、JICAの協力で大阪大学などと共同研究をし、生産設備を支援してもらった。そこでブラジルでは初めて本格的なワクチン量産体制が作られた。JICAが背中を押してくれたおかげで、今では10種類以上のワクチンを量産している。私が務め始めたころの研究所は小さな所帯だったが、今では2千人を越える施設に育った。その拡大するきっかけがJICAだった。ブラジル国全体が裨益する重要なワクチン研究支援だった」と日本政府の協力を高く評価した。

マルガレッチ氏

1990年のJICA報告書『ブラジル連邦共和国ワクチン製造プロジェクトアフターケア調査報告書』（https://openjicareport.jica.go.jp/pdf/10913432_01.pdf）によれば、1973年に「国家予防接種計画」を制定した軍事政権が、日本政府に対して麻疹とポリオ撲滅のために両ワクチンの自国生産体制および品質管理体制整備に関わる技術能力の向上支援を要請した。

これを受けて日本は1980年8月にワクチン製造に関する討議議事録を署名・交換し、以後4年間に渡る技術協力を行った。この間、日本は3人の専門家派遣、17人の研修員受入れ、総額約6億4400万円の機材供与を実施した。

90年の時点で、日本の協力により麻疹ワクチンを年間約2千万人分、ポリオワクチンを約2600万人分生産するようになっていたと言う。

同報告書35頁によれば《同研究所で生産された各種ワクチンの販売（衛生省買い上げ）に伴う収益の30％が再び直接同研究所に還元されることとなり、本年度よりこれによる再投資が可能となった》と書かれている。

「魚を与えるのではなく釣り方を教えよ」という格言があるが、まさにそれだ。日本はワクチンを与えたのでなく、ワクチンの作り方を教えて設備を与えて、自分で製造できるようにした。その売り上げを、研究所が自己再投資することにより、新しいワクチンを開発してどんどん拡大してきた。その発端に日本の国際協力があった。

同研究所は1900年、高名なブラジル人細菌病理学者オズワルド・クルスを顕彰するためにその名前を冠して創立し、黄熱病、天然痘、泡沫状ペストなど熱帯医学分野で先進的な研究を行い、今ではラテンアメリカを代表する研究機関になっている。

今回の感謝ライブでは、あまり知られていなかった医療分野における日本政府のブラジル支援の歴史も垣間見ることができたのは大きな収穫だった。

（深）

心響太鼓の皆さん

健康体操の皆さん

追加接種加速、60カ国に

欧州先行、アフリカ遅れ
ワクチン格差浮き彫り

【共同＝木梨孝亮】新型コロナウイルスの変異株「オミクロン株」の感染拡大が続き、各国がワクチンの追加接種を加速させている。米ブルームバーグ通信などによると、5日までに日本を含め約60カ国・地域が着手した。欧州が最も多い一方、アフリカは2カ国のみで1回目の接種さえ進んでおらず、“ワクチン格差”が改めて浮き彫りになった。

日本では1日から医療従事者を対象に開始。来年以降、高齢者を中心とした一般住民にも順次拡大する。オミクロン株の確認も踏まえ、「2回目完了から原則8カ月以降」としている接種間隔の短縮を検討中だ。

感染拡大が続く欧州では約25カ国・地域で実施され、アルバニアやリトアニアなどの小国も含まれる。フランスや英国は接種間隔を短縮。ジョンソン英首相は来年1月末までに18歳以上の全対象者に追加接種を提供する目標を掲げ、仮設会場設置などに軍も投入する。

米国では、一部市民がかたくなにワクチンを避け、必要な接種回数を終えた人口の割合が約6割で頭打ち状態だ。バイデン大統領は「最善の防御策はワクチン接種の完了と追加接種の完了だ」と訴える。

アジアでは中国や韓国、マレーシアなどが追加接種を実施。7月に始めたイスラエルや8月開始のチリは普及が進む。ロシアは必要接種の完了率が4割弱だが、追加接種も行った。11月にはプーチン大統領が3回目接種を受けたと明らかにした。

アフリカではアルジェリアとチュニジアの2カ国にとどまる。アフリカ全体の接種完了率は7％（3日時点）で、1回目さえ受けていない人が多い。「変異株の温床」（国連のグテレス事務総長）とも指摘され、世界保健機関（WHO）も「ワクチン供給の不平等を解消しないと、パンデミック（世界的大流行）は終わらせられない」（テドロス事務局長）と強調する。

米国や中国がワクチン提供加速を表明しているが、どの程度普及するかは不透明だ。感染が広がりやすい脆弱な状態が続いている。

オミクロン株拡大

米、総合力で中国引き離す

豪調査、多国間外交を評価

【シドニー共同】オーストラリアのシンクタンク、ローウィー研究所が5日までまとめたアジア太平洋地域の26カ国・地域の実力調査「アジアパワーインデックス」によると、総合力で首位の米国と2位の中国の差が2018年の初回調査以来、初めて広がった。バイデン米政権の多国間外交を重視する路線を評価した。日本は4年連続で3位。

各国・地域を、軍事力や経済力など8分野で検討した。

首位の米国は100点満点中82・2点。前年比で0・6上がった。バイデン政権の「国内の刷新と国際的な協力体制の構築」を評価。「外交的影響力」が前年の3位からトップになった。「防衛協力」「将来への潜在力」を含む計6分野で首位だった。

2位の中国は74・6点で1・5下落。「経済力」と「経済関係構築」で首位だったが、「急速な高齢化、気候変動への脆弱さ、多額の債務、内向きの政治体制が重荷になる」とした。

中国の経済規模はやがて米国を上回る可能性が高いとの見通しは維持しながらも「30年以降に成長を続ける速度には限界がある」と分析した。

3位の日本は38・7点で2・3下がった。「スマートパワー（賢い力）」でどの国よりも効率良く、地域で影響力を行使しているとした。

6位のオーストラリアは30・8点で1・6下落。米英との安全保障枠組み「AUKUS（オーカス）」を創設し、原子力潜水艦を導入することで、東南アジアの国々の懸念を招くとし、「外交的影響力」が低下した。

静まる空港、街中は人混み

対策か経済か、揺れる南ア

【ヨハネスブルク共同】南アフリカが世界で初めて新型コロナウイルスの変異株「オミクロン株」の存在を明らかにしてから10日余りが経過した。国内の空港は各国による渡航制限で静まり返る。一方で、政府は規制強化に二の足を踏み、街中には人があふれ、感染者は「過去にないペース」（パーヒュラ保健相）で急増。南アは感染対策と経済活動とのはざまで揺れている。

12月初旬、最大都市ヨハネスブルクのオリバー・タンボ国際空港。アジアや欧米に向かう国際便の出発カウンターは、電灯が消え、ひっそりとしていた。「荷物から目を離さないでください」。自動音声のアナウンスが、人影のない建物内に繰り返し響いていた。

だが空港から一歩外に出ると、これまでと同じ日常が広がる。幹線道路沿いのショッピングモールの駐車場はどこもほぼ満車で、店内は買い物客であふれていた。「オミクロン株は心配だけれど、ずっと閉じこもってはいられない」。子連れで食料品店にいたITコンサルタントの男性、シピウェ・スコサナさん（34）は強調した。

南アはオミクロン株の脅威が明らかになった後も、感染対策の強化を当面は見送る選択をしたが、ラマポーザ大統領は「経済への配慮」を重視せざるを得ない事情を抱える。

しかし感染力の強さが指摘されるオミクロン株が流行する中、新型コロナの1日当たりの感染確認は4日に1万6千人以上となり、11月前半の40倍超を記録。街にはクリスマスシーズンに向かうにぎわいの中にも、不穏な空気が漂う。

「きっと事態はどんどん悪くなっていく」。ヨハネスブルク中心部で買い物袋を抱えながら配車サービスを待っていた女性美容師タンド・モヨさん（27）はつぶやいた。

アフガンに家族、募る不安
タリバン逃れ米国へ

【ワーサンプトン共同＝河内俊英】アフガニスタン駐留米軍が8月30日に撤退を完了してから3カ月が過ぎた。撤退に合わせ米軍はアフガン人協力者らを退避させ、米メディアによると約7万人が米国に逃れた。情報機関で勤務していたシェルザド・サイフィさん（27）もその一人だ。「ここでゼロから人生が始まる」と話す一方で、故郷に残した両親や妹の境遇に不安を募らせている。

サイフィさんはアフガンの首都カブールにある大学を卒業。情報機関の国家保安局で兵器や弾薬を部隊に運ぶ仕事に従事した。8月15日、イスラム主義組織タリバンがカブールを制圧。「タリバンは信頼できない」。米軍機による退避が始まると、家族と共にカブールの空港へ急いだ。

空港入り口は退避を切望する人でごった返し、混乱の中でサイフィさんだけが空港内に。「子どもが圧死した」ほどの人波で家族とはぐれ、着の身着のままで米軍機に乗り込んだ。

アラブ首長国連邦（UAE）を経由し、9月に米国に到着。東部マサチューセッツ州にあるカトリック系団体の支援で、同州ノーサンプトンのアパートで暮らし始めた。

団体責任者のキャスリン・バックリーブラウナーさんは「彼らはほとんど何も持たずに来た。食料や衣類、住居、教育など、ほぼ全ての面で支援が必要だ」と話す。国務省は各地の慈善団体などに対し退避したアフガン人の定住支援を打診、この団体は既に50人以上を受け入れたという。

サイフィさんはアパートで他のアフガン人と同居し、永住権取得へ手続きを進める。国家保安局の同僚3人はタリバンに殺され、アフガンに戻るつもりはない。「早く仕事を見つけたい。どんな仕事でもやる」。ただ、自身の生活以上に気掛かりなのは両親と妹だ。

情報機関で働いていた父親は、タリバンに見つかれば「殺される」として週1回のペースで住む場所を移している。勉強に励んでいた18歳の妹も合格した大学に通えていない。旧政権で女性の教育や就労を制限したタリバンは、女性教育再開に意欲を示すものの、教員確保などの問題で実現は見通せない。

独ショルツ政権、8日発足
16年ぶり中道左派主導

【ベルリン共同】ドイツ第1党の中道左派、社会民主党（SPD）を主軸とする連立に参加する3党の新政権承認手続きが6日、終了した。これを受け、SPDのショルツ財務相（63）が8日に連邦議会（下院）で首相に選出され、欧州最大の経済国ドイツの新政権誕生が決まった。ショルツ氏の首相就任に伴い、在任約16年のメルケル首相は政界を引退する。

新政権はSPD、第3党の環境保護政党「緑の党」、経済界に近い第4党の中道、自由民主党（FDP）の連立。SPDは4日にそれぞれ党大会で新政権の樹立を承認した。緑の党は6日、党員投票を経て承認したと発表した。

新政権は気候変動対策と社会政策に力を入れるほか、移民のドイツ社会への統合も促進する考えで、メルケル氏よりもさらにリベラル色の濃い政策を進める見通しだ。

ショルツ氏を除く閣僚は男女同数となり、外相には中国やロシアの専制主義を批判する緑の党のベーアボック共同代表が就く。主要ポストの国防相や内相にも女性が就任。ショルツ氏は6日、閣僚の半数を女性が占めることについて「誇りに思う」と述べた。

3党は既に、38年までに石炭火力発電所を全廃するメルケル政権の決定を前倒しし、30年までの廃止が望ましいと表明した。気候変動対策と経済政策を管轄する重要省庁も新設する。最低賃金引き上げなど労働政策の強化のほか、移民のドイツ国籍取得を容易にする方針も打ち出した。

SPDは9月の総選挙でメルケル氏の保守、キリスト教民主・社会同盟（CDU・CSU）を小差で下した。SPDと緑の党、FDPの3党首らは11月24日、連立政権樹立で合意した。

外交ボイコット今週発表か
五輪、中国は対抗措置警告

【ワシントン、北京共同】米CNNテレビは5日、バイデン政権が来年2月の北京冬季五輪に米政府当局者を出席させない「外交ボイコット」の実施を今週発表する見通しだと報じた。一方、中国外務省の趙立堅副報道局長は6日、米国が実行すれば対抗措置を取ると警告。米中の対話や協力に影響が及ぶとの認識を強調した。対立がさらに激しくなる可能性がある。

世界が注目する舞台で中国の人権問題に抗議する姿勢を示すのが米国の狙い。選手団は通常通り派遣し、競技に参加する。英国やカナダ、オーストラリアなどのほか、日本が同調するかどうかも焦点となる。

趙氏は定例記者会見で「スポーツを政治問題化するべきではない。ボイコットはやめるべきだ」と米国に要求。「一部の政治家が招待されてもいないのにボイコットと騒ぎ立てている」と非難した。「来ようが来まいが誰も気にしない。北京五輪の成功に影響はない」とも話した。

ロシアのプーチン大統領は開会式に出席する方向で調整中。多くの国が外交ボイコットを実行すれば、世界の分断の象徴にもなりかねない。

米議会では、中国の新疆ウイグル自治区などでの人権問題を巡る懸念が超党派で広く共有されており、上院が外交ボイコット要求を含む対中法案を可決し、政権に圧力。人権や民主主義の重視を掲げる政権が実施しなければ、矛盾を指摘されかねない。

ただ外交ボイコットについては、北京の米大使館員らも含めているのか、そもそも外交ボイコットという言葉を政権が使うのかどうかなど不明確な点は多い。

ジャワ島で噴火、14人死亡

インドネシア、50人超けが

【ジャカルタ共同】インドネシア・ジャワ島東部のスメル山（3676メートル）が4日午後に噴火した。国家災害対策庁によると、5日までに少なくとも14人が死亡、56人が重軽傷を負った。火砕流が広範囲に広がって多数の家屋が数メートルの堆積物で埋まっており、死傷者は増える恐れがある。避難者は約1300人に上った。火山灰により道路交通に影響が出ている。

ジョコ大統領は5日、不明者の捜索や負傷者の治療、避難者の支援を急ぐよう関係当局に指示し「この種の災害に常に警戒し、協力し合わなければならない」と述べた。

国家災害対策庁や国軍は5日、ヘリや重機を現場に投入し、捜索活動を本格化。食料やテントなどの救援物資も到着した。負傷者の多くはやけどを負っている。

スメル山はジャワ島最高峰として知られ、これまで噴火を繰り返している。救助当局や地元メディアによると、住民男性の1人は救助隊員に「2歳の孫が埋まったままだ」と涙ながらに訴えた。スメル山が位置する東ジャワ州ルマジャン県の病院では多くの負傷者が治療を受けた。

地元住民のアグスさん（40）は火砕流が目の前に迫ってきた際、近くの店のトイレに他の住民5人と共に逃げ込み、救助されるまで約2時間過ごした。「周囲の制止を振り切ってバイクで自宅に帰ろうとした別の住民1人が（火砕流に）100メートル流され、遺体で見つかった」と振り返った。

運輸省によると、州内の空港で運航に影響は出ていない。

インドネシア・ジャワ島東部で、噴火したスメル山から出る大規模な噴煙＝4日（インドネシア国家災害対策庁提供・共同）

中国、民主サミット警戒
招待国と連携強化図る

【北京共同】米国が9、10日に民主主義サミットを開くのを前に、中国がサミットに招待された国と次々に会談し、連携を強めようとしている。米国はサミットに約110カ国・地域を招待しており、習近平指導部は幅広い対中包囲網の構築につながるのを警戒している。

「世界で唯一の覇権的地位を守り、他国の内政に干渉するのが米国の狙いだ」。中国の王毅国務委員兼外相は3日、パキスタン外相と電話会談し、サミット開催を強く非難。サミットに招待されていない中国にも「民主」があると主張した。

中国は、自国の領土だと主張する台湾が招待されたことなどに神経をとがらせており、サミットが「世界を分裂」させると反発している。

習指導部は中国の「仲間づくり」（北京の学者）を加速。王氏は4日、マレーシア外相と浙江省で会談し「相互信頼を深め続ける必要がある」と訴えた。中国に地理的に近いマレーシアへの米国の影響力を最小限に抑え、つなぎ留める考えだ。

インドネシアの調整相とも5日会談。中国側は民主主義に関し「欧米の基準を無理に押し付けるべきでないとの認識で一致した」と宣伝した。

中国は11月以降、東南アジア諸国連合（ASEAN）、アフリカ、中南米カリブ海諸国共同体との会議も相次ぎ開催した。新型コロナウイルスのワクチン提供や経済支援などを表明した。

ただ攻撃的な外交姿勢を貫いてきた中国への反発もある。リトアニアは11月、中国が強く反対したにもかかわらず、台湾の名称を用いた代表処（代表部に相当）を首都ビリニュスに設置した。

習国家主席がオンラインで出席した11月のASEAN首脳との会議では、フィリピンのドゥテルテ大統領が南シナ海での中国海警局の行動を巡り「嫌悪する」と非難する異例の事態も起きた。

対中資源依存、極めて危険
チェコ上院議長が会見

【ウィーン共同】チェコのビストルチル上院議長は4日までに共同通信とオンライン会見し、中国は望むものを手に入れるためには資源やレアメタル（希少金属）の戦略物資としての利用をためらわないと指摘、「こうした物資の中国依存は極めて危険」と警告した。

台湾の「民主主義と自由」を支援する考えを改めて強調、チェコが2022年後半の欧州連合（EU）議長国を務める際、中国と台湾の問題を議題として提案すべきだとの考えを示した。

ビストルチル氏は台湾を昨年訪問し蔡英文総統と会談した。外交関係がない国の議会の長として初めて立法院（国会）で演説。人権問題などで中国批判が強まるEU内で台湾接近の急先鋒の一人として知られ、今年10月にはチェコを訪問した呉ショウ燮外交部長（外相）と会談した。

ビストルチル氏は「中国は台湾を孤立させるためなら手段を選ばない」と批判。中国の経済力は大きく、商取引をせざるを得ないが「（中国への）過度な依存は有害になると心にとめるべきだ」と述べた。

同氏は、近く発足するチェコ新政権では自身の訪台を支持する声が強いとし、今後、台湾との関係拡大に前向きな動きがあるだろうと強調した。

同氏は1968年、チェコスロバキア（当時）の民主化運動「プラハの春」をつぶすため、ソ連を中心とする東側諸国のワルシャワ条約機構軍が行った侵攻を経験した。「独裁的な権力を背後に感じながらの生活がどのようなものであるか理解している」と述べ、台湾支援の姿勢に影響していると説明した。

中国恒大がリスク管理委
経営危機に政府介入

【北京共同】中国不動産大手、中国恒大集団は6日、経営危機に対処するため「リスク管理委員会」の設置を決めたと発表した。メンバーに恒大が本社を置く広東省の政府系投資会社の幹部らが加わる。資金繰りが改善せずデフォルト（債務不履行）の懸念が高まる中、政府が経営に介入する姿勢が鮮明となった。市場ではデフォルト懸念から恒大株が急落した。

恒大トップの許家印主席が委員会の代表も務め、7人で構成する。中国政府系の不良債権処理会社、中国信達資産管理の幹部や弁護士らも参加する。恒大は「メンバーの豊富な経験と資源がさまざまな困難の解決に貢献する」とコメントした。

広東省政府は3日、政府の作業チームを恒大側に派遣すると発表していた。今回のリスク管理委との関連は不明。

恒大は、米東部時間6日（日本時間7日）には子会社が実施しなかった計8249万ドル（約93億円）の社債利払いが猶予期限を迎える。香港株式市場では6日、恒大株の終値が前週末比19・56％安の1・81香港ドル（約26円）となり、2009年11月の上場以来の最低を記録した。

恒大は3日、債権者から2億6千万ドルの債務返済の督促を受けていると公表。「財務上の責任を履行できる保証がない」とし、外国の債権者と債務の見直しを協議すると表明した。債権者らが債務再編に応じるかどうかは未知数だ。

中国では、今年前半に再建型の法的整理に入った複合企業、海航集団も事前に海南省政府が経営に介入し、再建案の承認にこぎ着けた。中国当局は「むやみな事業拡張」に対する批判を強めており、恒大にどの程度の救済措置が取られるかは見通せない。

マルイチ食品、何時もあなたの食卓に
www.maruiti.com.br
MARUITI
TONKATSU YAKISSOBA

VENDA em BANCA

Nikkey Shimbun
ニッケイ新聞

ANO XXIV – Nº 5871 SÃO PAULO, TERÇA-FEIRA, 7 DE DEZEMBRO DE 2021 R$ 6,00

日ポ生活会話ガイド
O Jeitinho no Japão para os brasileiros
特別価格 R$50
購入は ●太陽堂 11-3208-6588 ●フォノマギ竹内書店 11-3104-3399

オミクロン株「最悪想定」

電子接種証明20日開始
新資本主義 地方が主役

【共同】第207臨時国会が6日召集され、岸田文雄首相は衆院本会議で所信表明演説を行った。新型コロナウイルス「オミクロン株」拡大に対応するため「最悪の事態を想定」し、危機管理への決意を示した。ワクチン接種の電子証明書発行を20日から始めると表明。「新しい資本主義」の主役は地方だとして、デジタル化で地方から国全体へボトムアップの成長を実現するとした。8日の衆院代表質問から国会論戦が本格化する。来年夏の参院選をにらみ与野党の攻防は激しさを増しそうだ。

衆院本会議で所信表明演説をする岸田首相＝6日午後（共同）

所信表明、参院選へ攻防

オミクロン株について「多くの国でも確認されるなどのリスクが生じている」と指摘。ワクチンの効果を見極めた上で、3回目接種を「8カ月を待たずに、できる限り前倒しする」と述べた。米モデルナ製を活用。無料のPCR検査を拡充する。飲み薬の年内の薬事承認も目指すとした。

経済社会活動の再開は、楽観的になることなく、慎重に状況を見極めると強調。感染が再拡大した場合には、「行動制限の強化を含め、機動的に対応する」と説明した。

コロナ危機を乗り越えた先には成長も分配も実現する「新しい資本主義」の具体化を進めると力説。3年程度で高速大容量のデジタルサービスを使えるようにし、人口減少、高齢化などの課題を解消すると打ち出した。

分配策を巡っては、賃上げ税制を強化するほか、「若者世代・子育て家庭」の所得増も目指し、女性就労の制約となっている制度の見直しに取り組むと主張した。

憲法改正については、「国会議員には憲法の在り方に真剣に向き合う責務がある」として国会での議論に期待を示した。

同時に国民理解の「深化」に向け「国会議員が広く国民の議論を喚起していこう」と呼び掛けた。

外交・安全保障に関しては「敵基地攻撃能力」も含め、あらゆる選択肢を排除せずに検討し、新たな国家安全保障戦略や防衛大綱、中期防衛力整備計画をおおむね1年かけて策定するとした。

衆参両院は各党の代表質問を8～10日に実施。衆院予算委員会審議は13日開始の見通しだ。新体制で臨む立憲民主党など野党は10万円相当給付の事務経費問題などを追及する。

愛子さま皇居で成年行事
ドレス、ティアラお披露目

天皇、皇后両陛下に成年のあいさつを終えられた長女愛子さま＝5日午後、宮殿・西車寄（代表撮影・共同）

【共同】天皇、皇后両陛下の長女愛子さまは5日、皇居・宮殿などで成年の行事に臨まれた。女性成年皇族の正装のドレスにティアラを初めて身に着け、皇居・宮殿で両陛下にあいさつした。報道陣からお祝いの言葉を掛けられると「ありがとうございます」とほほ笑み、会釈した。

両陛下へのあいさつの後、宮殿の玄関「西車寄」前に現れた愛子さまは正装の白いローブデコルテ姿。頭には陛下の妹黒田清子さんから借りたティアラが輝いた。新型コロナウイルス禍で苦しむ国民に配慮して新調を見送った代わりとなるもの。終始笑みを絶やさず、撮影を終えると丁寧に礼をして宮殿へ戻った。

その後、上皇ご夫妻との面会で東京・高輪の仙洞仮御所へ。近くの沿道には200人を超える人が祝福に集まり、愛子さまは車内からにこやかに手を振って応えた。

宮殿に戻ると、秋篠宮さまら皇族、黒田さんら元皇族、岸田文雄首相らから、両陛下と共に祝賀を受けた。

この日は午前中、皇室の祖先などを祭る宮中三殿も参拝。宮殿では陛下から勲章「宝冠大綬章」を授与された。愛子さまは背筋を伸ばして勲章を受け取り、陛下も優しいまなざしで見守ったという。

1日に20歳の誕生日を迎えたが、大学の授業があったため、主な成年行事を休日の5日に移した。成年に当たり愛子さまは「一つ一つのお務めに真摯に向き合い、できる限り両陛下をお助けしていきたいと考えております」との感想を公表している。

通常は誕生日前に行う成年に当たっての記者会見は、大学が春休みの来年3月中旬に開く。成年行事後の初の公務は、来年元日に宮殿で行われる新年祝賀の儀になる見込み。

オミクロン 初の日本人確認
3例目、イタリア滞在歴

「医療資源集中」と首相

【共同】政府は6日、新型コロナウイルスの新たな変異株「オミクロン株」について、3例目の国内感染が確認されたと発表した。イタリアに滞在歴のある30代の日本人男性で1日に羽田空港に到着した。日本人のオミクロン株感染判明は初めて。岸田文雄首相は6日の自民党役員会で新型コロナ対応に関し「限られた医療資源をオミクロン株の対応に集中させる。機動的に国民の命を守る対策を講じる」と語った。

厚生労働省によると、男性と飛行機で同乗した乗客は41人で、全員を濃厚接触者として健康観察する。このうち1人が空港検疫で新型コロナ陽性だったが、オミクロン株ではなかった。

オミクロン株感染の30代男性は、今のところ症状はない。イタリアに滞在した後、ドイツのフランクフルトを経由して日本に到着。検疫で新型コロナ陽性となったため、国立感染症研究所でウイルスのゲノム（全遺伝情報）を解析し、オミクロン株と判明した。今年7月と8月に米モデルナ製ワクチンを2回接種していた。

国内ではこれまでに、成田空港に到着したアフリカ南部ナミビアの30代の男性外交官と、南米ペルーから到着した20代の男性の感染が確認されており、3例目の男性を含めて全員が空港検疫で発見されている。

感染者3人の濃厚接触者は計225人に上り、自宅や検疫指定の施設で待機している。

また松野博一官房長官は6日午前の記者会見で、11月28日に成田空港へ到着したナミビア滞在歴のある10歳未満の男児が陽性判定されオミクロン株かどうか検体を調べていると明らかにした。

福島のデジタル化拠点視察
首相、田園都市構想で

【共同】岸田文雄首相は4日、街全体をITでつなぐスマートシティー構想を進める福島県会津若松市を訪れ、拠点施設を視察した。政権が掲げる「デジタル田園都市国家構想」の実現に向け、地方でのデジタル化の好例としてアピールしたい考えだ。

首相は視察先で、市内の酒造組合によるリモート販売会や、相手が等身大に映ることで対面感覚を味わえる大画面でのオンライン会議を体験。縦2・35メートル、横6・5メートルの画面に映った人と実際に会話し「大きさは人間の感覚にとって重要だと思った」と語った。

午後はデジタル化に取り組む地元関係者と車座で意見交換する。

政府はデジタルを活用した地方活性化策として構想を推進している。首相は11月にも松山市で高校生と地方のデジタル化について対話した。

超大画面遠隔会議システムを視察する岸田首相（左から2人目）＝4日午前、福島県会津若松市（代表撮影・共同）

個人番号利用、25年度拡大
行政効率化へ方針転換

【共同】デジタル社会の実現に向け、政府が取り組む施策をまとめた新たな「重点計画」素案が6日、判明した。行政効率化のため、マイナンバー（個人番号）制度を見直す方針を明記。2025年度までに、社会保障と税、災害の3分野以外の行政手続きにも番号を利用できるようにする。番号の利用は、個人情報を大切にしたい国民感情に配慮して3分野に限った経緯があり、大きな転換となる。

行政手続きに必要な個人情報は、さまざまな行政機関に分散して保管されている。行政側は番号を手掛かりに、この中から特定の住民の情報を探し出すことが可能。このため住民は住民票などの書類提出を省略できる。

素案は「番号の利用で行政の事務処理がスムーズになり、国民の利便性向上につながる」と強調。22年に新たな番号の利用範囲などを検討し、23年に関連法案を国会提出する。必要なシステム整備は24年以降で、25年度までに番号の利用拡大を目指すとした。

デジタル庁によると、番号を利用している行政手続きは、3分野で計約2300。同庁は3分野以外の延べ約千の手続きも、番号を使えば住民票などの提出が不要になるとみている。

具体的には、贈与税の申告や在留資格認定証明書の交付申請、建設業の許可などが該当する。素案は、こうした手続きの中から「国民の理解が得られたもの」を番号利用の対象に加えるとの方針を示した。

重点計画は今年9月施行のデジタル社会形成基本法に基づく。年内に閣議決定の予定。法施行前の6月に策定した重点計画がベースになっている。番号関連法案の提出は6月時点では22年としていたが、今回の素案で23年に先送りされた。

空襲被害「私が語らねば」
地下道の孤児、地獄の日々

日米開戦80年、平和願う

【共同】私が語らなければ、東京大空襲の被害は伝わらない―。埼玉県川口市の鈴木賀子さん（83）は空襲で孤児になり、地下道で暮らした。「豊かになった今だからこそ、戦禍を乗り越えた経験を知ってもらいたい」。太平洋戦争開始から8日で80年。罪のない子どもが苦しむ戦争を二度と起こさないよう願う。

東京大空襲に遭ったのは7歳の時。自宅は東京都城東区（現江東区）で、1945年3月10日は家族5人で防空壕に避難していた。母と17歳の姉は「大事な物を取りに行くから」と言い残して出て行ったきり、会うことはなかった。

本当の地獄は、火の海を逃げ回った後の日々だった。父親は既に病死しており、鈴木さんと4歳の弟は親戚だという女性に引き取られて北海道へ。14歳の姉は勤め先の寮で暮らした。

だが鈴木さんは、次第に女性から暴力を受けるようになり、右脚には2階の窓から投げ出された時の後遺症がある。「ご飯がなくてもいいから帰ろう」。弟と2人で船と電車を乗り継ぎ、再び東京へ。一時は姉の住む寮に身を寄せたが、居づらくなり、向かったのが上野駅の地下道だった。

終戦後の混乱の中、孤児であふれ、朝起きると毎日誰かしら亡くなっていた。飢えをしのぐため、孤児仲間と上野公園に来た人の弁当や、闇市の食べ物を盗んだ。「すぐ口に入れるんです。捕まって殴られても取り返されないようにね」

ここには長くはいられないと、しばらくして弟は孤児院に、鈴木さんは茨城県の親戚宅に預けられた。そこでも邪魔者扱いされながら生活していたが、血縁関係のない女性が引き取り、学校に行かせてくれた。

その後は東京で就職、結婚し、3人の息子を育て上げた。「弱みを見せたくない」と戦争の記憶にふたをし、必死に生きてきた。しかし「各地の空襲被害や戦後の過酷な暮らしが学校できちんと教えられていない」との危機感から、還暦を過ぎて経験を語り始めた。

太平洋戦争は41年12月8日、旧日本軍が米ハワイの真珠湾を奇襲攻撃して始まった。東京大空襲につながる戦争の発端について知ろうと、約20年前には真珠湾にある記念館を訪れた。「戦争は人殺し」と実感し、改めて思った。「二度と繰り返さないために、誰かが話さないといけない」

かつての敵国が同盟国に
真珠湾攻撃で米大統領声明

【ワシントン共同】バイデン米大統領は3日、旧日本軍によるハワイの真珠湾攻撃から80年となるのを前に声明を出し「最も暗い時期に米国を導き、かつての敵国（の日本）を同盟国に変えた国際システムの基礎を築いた偉大な世代に感謝する」と表明した。

米大統領は毎年この時期、米国時間の12月7日を真珠湾攻撃の「追憶の日」と宣言する布告を出している。バイデン氏は連邦政府機関、各種団体や個人に向け、真珠湾攻撃で犠牲になった米国人を追悼するため7日に星条旗の半旗を掲げるよう呼び掛けた。

キリン 国際仲裁を提起
ミャンマー合弁解消で

【共同】キリンホールディングスは6日、ミャンマー国軍系複合企業とのビール事業の合弁解消に向け、シンガポール国際仲裁センターに仲裁を提起したと発表した。両社の主張は対立しており、キリンは合弁解消の正当性を国際社会に訴える狙いがある。

ビール事業を手掛ける合弁会社は、国内最大手のミャンマー・ブルワリー。キリンが2015年に買収し、キリンが51％、国軍系複合企業が49％をそれぞれ出資している。

ミャンマーで2月に国軍によるクーデターが発生したことを受け、キリンは国軍系複合企業に合弁解消を申し入れた。だが国軍系複合企業は11月19日付でミャンマーの裁判所に合弁会社の清算を申し立て、キリンは「契約を無視する形で不当に行われた」と批判するなど交渉は難航していた。

キリンは裁判所に清算の申し立てを却下するよう求めていくとしているが、軍事政権下で裁判所が国軍系複合企業の意向に沿った決定を出す可能性がある。今回提起した仲裁でキリンに有利な結果が出ても、国軍系複合企業が従うかどうかは不透明だ。

三重と青森「忍者部」交流
活動や魅力、ネットで公開

【共同】三重大国際忍者研究センターは4日、三重大と青森大の「忍者部」の部員らがオンラインで互いの活動内容を紹介するなどした交流の様子を、同センターの公式ユーチューブチャンネルで公開した。忍者部同士の交流は初めてで、忍者の歴史や魅力、忍術訓練の様子を熱く語り合った。

タイトルは「世紀の対決！青森大忍者部VS三重大忍者部」。忍者研究の第一人者で三重大人文学部の山田雄司教授が、青森の忍者を研究する青森大社会学部の清川繁人教授に声を掛け実現した。

青森大は2016年、弘前藩に仕え約200年存続した忍者集団「早道之者」の活動を解明しようと、全国初の忍者部を創設。部員が忍者屋敷の保存活動をしたり、地域イベントで体術や剣術を披露したりしていると紹介した。

18年に部を立ち上げた三重大は、部員十数人が忍術書を読み解き「目つぶし」などの忍術を再現したり、伊賀流忍者発祥の三重県伊賀市で開催される手裏剣打ちの大会に向けて練習に励んだりする様子を報告した。

山田教授は取材に「方向性の違いが際立ち、いい機会だった」、清川教授も「同じ忍者部でも多様性がある」と話した。

JORNAL ニッケイ新聞 NIKKEY SHIMBUN
EDITORA JORNALÍSTICA UNIÃO NIKKEI LTDA.
Rua da Glória, 332, Liberdade,
Cep 01510-000, São Paulo – Sp, Brasil
TEL: (11) 3340-6060
Site: www.nikkeyshimbun.jp/
Facebook: www.facebook.com/NikkeyShimbun/
Diretor Presidente: Raul M. Takaki
Jornalista Responsável: Aldo Shiguti - MTb 36.982
Redator: Masayuki Fukasawa
記事に関するご意見
Redação: redacao@nikkeyshimbun.jp
配達・購読契約に関する連絡
Assinatura: nikkeyshimbun@yahoo.com.br
広告に関する連絡、問い合わせ
Publicidade: anuncio@nikkeyshimbun.jp
Periodicidade: Terça-feira à Sábado

Assinatura

	Anual	Semestral
WEB	R$ 1100,00	R$ 550,00
Impressa	R$ 900,00	R$ 480,00
Digital (PDF)	R$ 500,00	R$ 270,00